

公益社団法人  
那須町シルバー人材センター広報 第2号

つな  
が  
る

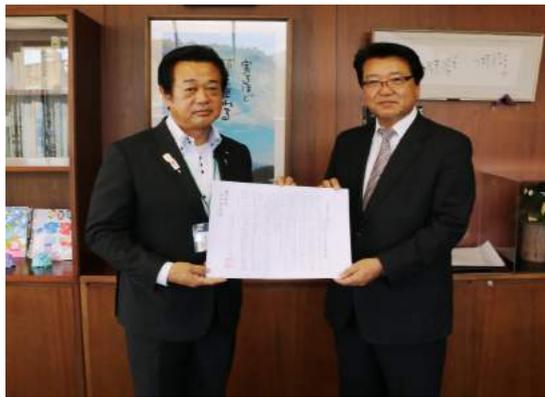


## 町長、町議会議員に要望書を提出

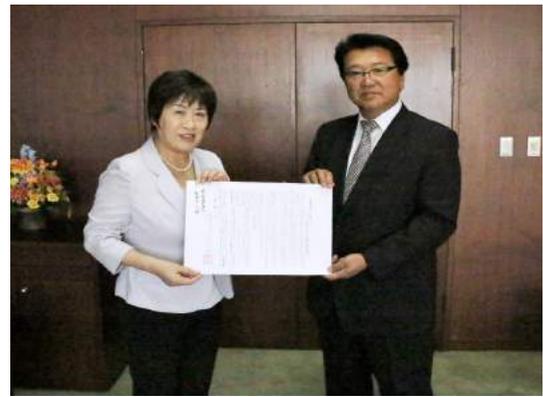
### 補助金増額と事業発注増加を要請

シルバー人材センターは、高齢者の「居場所」と「出番」を作り出すことで、「生涯現役社会」の実現を果たす役割を担っております。このような役割を果たすことによって、高齢者の生きがいを充実させ、社会参加の促進を図り、ひいては地域社会の活性化と、医療費や介護給付費の削減に寄与しています。

このような状況を踏まえ、10月1日に那須町役場を訪れ、来年度の事業推進に必要な本センターに対する国の補助金と同額以上の補助金の確保、さらには公共機関からの事業発注増加について、益子理事長から平山幸宏町長並びに松中キミエ町議会議員に要望書を提出しました。



町長に要望書を提出



町議会議員にも要望書を提出

### 高齢者活躍人材育成事業

#### 在宅介護支援技能講座を開催

高齢者活躍人材育成事業とは、厚生労働省からの委託を受け、栃木県連合会が主催する事業で、「生涯現役社会」を目指し、いつまでも活躍できる人材を育成するため、各地で講座が実施されています。

ここ那須町におきましても、平成30年9月4日から3日間の日程で、「在宅介護支援技能講座」が那須町文化センターにおいて実施されました。台風が接近しているという悪条件の中、

6名の那須町シルバー会員が受講しました。

本講座は、これから需要が見込める介護支援分野にて必要な技能を付与することを目途に実施され、参加した会員からも「就業に対するスキルアップの前に、これからの生活の中で役に立つ勉強をすることができました」と高い評価を受けました。



#### 表紙写真

表紙は、ホテルエピナール那須のイベントとして実施されている「そば打ち体験」で、そば打ちを指導しているシルバー人材センター会員の方々です。

## 那須町シルバー人材センター 事業内容および今後の動向

### ▼平成2年に事業スタート

那須町シルバー人材センターは、平成2年4月に会員121名（男性77名、女性44名）でスタートし、初年度の事業収入金額は1,190万円ほどでした。

その後、徐々に会員数と事業規模を拡大し、平成24年4月には公益社団法人となり、本年10月末現在の会員数は225名（男性158名、女性67名）と発足時の倍近い規模まで会員が増え、様々な事業分野で活躍しています。

### ▼当初の10倍に事業規模拡大

このため事業収入金額も、平成29年度決算額で約1億1,630万円と初年度の10倍近くまで伸びてきています。

収入金額の内訳は、民間の事業所関係が6,350万円（約55%）、一般家庭が3,740万円（約32%）、那須町役場など公共機関が1,540万円（約13%）となっております。

この間、毎年安定的に事業が伸びてきた要因としては、

(1) 観光地としてのメリットを生かしたホテル、ペンション等の清掃業務が長期間継続的にあること

(2) 農業従事者の高齢化などにより農耕関連作業（種まき、植え付け、農作物の手入れ、収穫作業、畔や畝の草刈り、等）の依頼が増えてきていること  
などが考えられます。

作業分野別収入額から見ての上位3業務は、

(1) ホテルやペンションの事業所での清掃

業務が約3,490万円

(2) 種まきや農作物収穫業務の農耕作業が約2,470万円

(3) 一般家庭の除草関連業務の草取り、草刈りが約2,300万円

となっております。

### ▼農耕関連と福祉サービス関連が 需要増加見通し

今後の見通しといたしましては、農業従事者の高齢化および後継者不足の問題から、農耕関連作業分野は今後も引き続き需要が伸びていくものと考えられます。

また、核家族化や高齢化社会を反映して独居世帯や高齢者世帯への福祉サービス分野、および生活支援サービス分野（ゴミ出し、室内清掃、庭の草取り、植木剪定）なども徐々に需要が伸びてくるのではないかと予想されます。



需要増加が見込まれる  
農耕関連（上）と  
福祉サービス（左）

# 職場見聞録

## いちごの定植



通称・那須街道でほとんどの観光バスが立ち寄るであろうと思われるのが、「お菓子の城」ですが、ここには観光いちご園『いちごの森』が併設されており、12月から翌年5月頃までいちご狩りが楽しめるようになっています。

今回、この『いちごの森』からシルバー人材センターが受注したのは、いちご苗の定植作業。ちなみに『いちごの森』は、ビニールハウスが23棟あり、うち9棟がスカイベリーで、残りはとちおとめ。9月20日から25日の6日間で、トータル4万5000株を植え付けるのが今回依頼された仕事でした。

昨年までは大田原シルバー人材センターが引き受けていましたが、今年から那須町シルバー人材センターに発注を変更したそうです。

作業は、あらかじめ空けられている植え付け用の穴にポットに入ったイチゴの苗を入れていき、次にポットから苗を取り出して土に埋めていきます。このとき、ランナー（苗から出ているつる状のもので、いちごの子株）の短いほうを内側に向け、長いほうは外側へ垂らしておきます。このランナーの先に実がつくということです。また、苗の根元にはクラウン（いちごの根茎部分で、ここから新しい葉や茎、ランナーが出てきます）があり、そこに太陽が当たる程度の深さに苗を押し込むことが大事で、ここに太陽が当たらないと根が成長せず、実付きが悪くなるそうです。クラウン部分が土に隠れないように注意しながら、かつ、ぐらつかないように土で押さえ込んでいくという、結構微妙な押し込み加減を要求される作業を皆さん黙々とこなしていました。



植え付け用の穴にポットを入れていく



ポットから苗を取り出して土に埋める

# 職場見聞録 成沢菜園

## ジャガイモの収穫

ライオンの「ガオー、ガオー」と吠える声に驚きましたが、吠え声をBGMにするかのようにジャガイモの収穫作業が始まりました。成沢菜園より依頼さ

れた“マチルダ”とい

う種類のジャガイモの

収穫で、畑の場所が

ちょうど那須サファリパーク入口のすぐ隣に位置していたのです。

成沢菜園は有機栽培の自然農法が売り物。除草薬や農薬は一切使用しません。このため、畑にはジャガイモの葉や茎は見受けられず、正直なところ雑草地そのもの。作業に当たる会員の生方さんが「機械で

掘るんじゃないんですか？」とつい聞いてしまいましたが、いわば「手掘り」。

作業現場のジャガイモ畑

畝と畔の間に多少の段差があるので、それを頼りに掘る位置を確定して、皆さん一斉に作業に取り掛かりました。畝の部分に生えた雑草を引き抜いて、土を手で掻くように掘っていくと、小ぶりのジャガイモが姿を現しました。植えられた種芋は100kg。

成沢菜園では、4か所のほ場（約2丁

歩）で年間100種類の野

菜を生産していますが、シルバー人材センターを利用したのは今回が初めて。

朝8時頃に始まった収穫作業は、熱中症を予防するため適宜休憩を取りながら昼食をはさんで午後まで続きましたが、芋を掘る作業自体は午後1時ちょっと過ぎに終

貴重な晴れ間を利用して1日で収穫



作業現場はサファリパークのすぐ隣



畝に合わせて横並びで手掘り収穫

わり、掘り上げたジャガイモを運搬用のケースにまとめ入れることで本日の作業終了となりました。



# 職場見聞録 ホテルサンバレー那須

## 浴室清掃

シルバー人材センター発足以来の長いおつきあい、と言われております「ホテルサンバレー那須」。ここでは、浴室清掃に4名、施設清掃に1名、植木の水やりで2名の計7名の会員が仕事に従事しています。

今回訪ねた就業現場は、浴室清掃。

就業現場の“オリエンタルガーデン 湯処ひのき”は建物全体がひのきで造られていて、良質の湯と天然のひのきの香りによる抜群のリラックス効果を特徴としてうたっています。

清掃するのは、露天風呂3か所と内風呂。

浴槽がひのき造りで、温泉の硫黄成分が付着するとヌルヌルの状態となりますので、硫黄成分を落とすために、広い面の清掃はデッキブラシを用いますが、上がり縁などの細かい所は、たわしを使ってしっかりとこすり落としていました。

浴槽を清掃したあとは、鏡や蛇口、洗い桶、椅子

などを一つ一つ丁寧に洗い、桶はその後、乾燥もさせます。そして最後に洗い場の床面を、ホースで水を掛けながら清掃。丁寧かつスピーディーさが求められる現場でした。



スポーツセンター前でトリミング作業



奉仕活動に集まった会員たち

草取り作業もきめ細かく



10月20日  
シルバーの日  
奉仕活動



文化センターの駐車場では  
草刈り作業

20日の朝、益子理事長の挨拶と事務局の説明を受けた会員たちが、所定の場所へ散って、作業に取り掛かりました。



枝切ばさみで丁寧にトリミング



奉仕活動後は体育館にてレクリエーション（輪投げ）で和気あいあい

## この人にスポットライト



専門技術を必要とされる植木剪定部門の人材は那須町シルバー人材センターではとても少なく、今回ご紹介する深澤善寿さんは、その中でも最年少の昭和30年生まれの63歳。いわば植木剪定分野で次代を担ってほしいと期待される「若手」と見られています（世の中の一般的解釈とはかなり年代がずれますが…）。

深澤さんは那須町森林組合を定年まで勤めあげ、退職後も1年間は再雇用の形で森林組合に勤務していました。主な職種は事務系統で、昨年9月にシルバーの会員となりましたが、本格的な植木剪定は未経験。

「この仕事に就いた最初から指導をしていただいたのが他県出身の先輩の方で、もともと植木職人さんでしたから、それは、それは植物に詳しくて、植物の種類や病気などについてもよく知っていましたね。先輩に一から教えてもらいました」

その先輩からまず言われたのが、自分の道具を持ちなさいということで、はしご類から始まって、トリマー、植

木ばさみ、剪定ばさみ、のこぎり、チェーンソーなど、すべて自前の道具を購入して使用しているそうです。

「結構な金額がかかりましたけど、剪定作業はやっていて楽しいですよ。植物によって剪定の時期が違いますし、花芽のあるものは剪定の時期がすごく大事です。樹木が自然な形になるように剪定することを心がけています」

実際に楽しそうに話す深澤さん。奥さんも「森林組合の時よりイキイキしているように見える」とおしゃっているそうです。

植木剪定関係の仕事は月に15日以上就労日があり、この仕事を始めてから、体重が4~5kg減って、血糖値も下がったそうです。まさに“身も心も充実”しているといった感じでした。

なお、深澤さんは、シルバーの仕事とは別に、那須町の民生委員も委嘱されていて、若さを生かして多様に活動されています。



## 広報紙「つながる」第2号発行にあたって

平成30年も残すところひと月弱となりましたが、皆様にとりましてはどのような1年だったのでしょうか？ 私事を申せば、3月までの“最年長”職場から、4月以降は、会員の皆様からすると「若い」と言われてしまうような職場環境に変わりました（そうは見えないよ、と言われる方もおいでかもしれませんが…）。

さて今年は、酷暑の夏、台風連続襲来の秋、と厳しい気象状況が続きましたが、このような中においても、会員の方々が粛々と業務に従事されましたことに感謝を申し上げます。

来る2019年は、新元号に変わる節目の年となりますが、自然災害のない年であって欲しいと切に願っております。そして、皆様にとりましても、健康で穏やかな1年となりますことを祈念いたします。

事務局長 池澤

## 広報紙【つながる】第2号

発行日 平成30年12月3日

発行所

(公社)

那須町シルバー人材センター

事務所

那須郡那須町大字寺子丙4-5

電話 0287 (72) 6321

FAX 0287 (71) 2220

ホームページ

<http://nasu-sc.sakura.ne.jp>